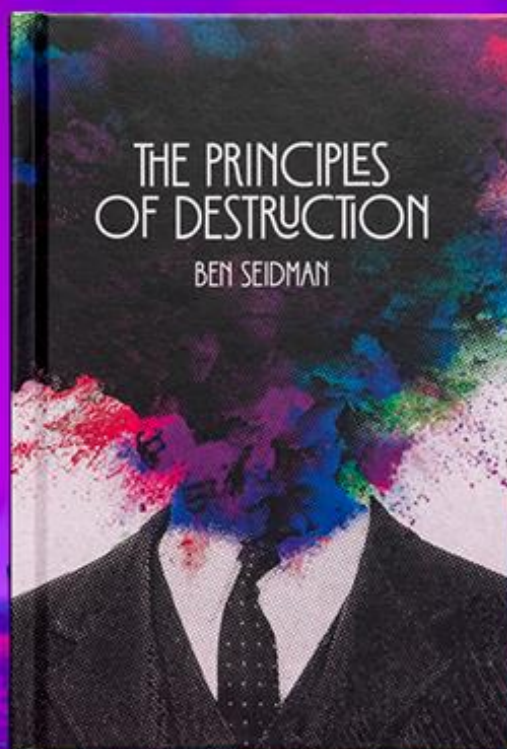


プリンシプル オブ ディストラクション



THE PRINCIPLES OF DESTRUCTION
BY
BEN SEIDMAN

< **日本語詳細解説書** >

翻訳：平賀義達
編集：フェザータッチ MAGIC

(訳注：これは実戦派プロマジシャン Ben Seidman のカードアクトを解説したものです。本人は「アクト」ではなく「1つのカードマジック」と表現していますが、実際は「ライジングカード」、「椅子の上のカード」、「インポッシブルローケーション」の3段階の構成です。

使われている「PRINCIPLES：原理」と言うのは、いわゆる「DUAL REALITY」(二重の事実)であり、それを巧妙に組み合わせています。ただ、本書の解説通りにやろうとすると難しい箇所がいくつかあるのですが、付属のフル動画を見ると Ben 自身も少し楽なやり方に変えて演じていることが分かります。本文訳注では、その部分と訳者の考えも記しておきましたので、ご参照ください。

(フル実演映像は、下記で視聴できます。ボーナス映像もあります。

<https://www.vanishingincmagic.com/explanation/pod> パスワード： 

実戦派のプロがどんなことをやっているのかを垣間見る良い教材ですので、動画と共に楽しみください

序文

Ben、あなたの本のこの序文をかけるのは名誉なことです。あなたは私のお気に入りのマジシャンの1人です。この序文を書くことは私にとって、すぐ始めるべき最優先事項です。

ですから、今週末くらいまでには書いておきます。

2024年2月 Mac King

(訳注：Mac King は有名なコメディマジシャンです)

はじめに

親愛なる読者の皆さん、この私の最初の本を皆さんとシェア出来るのを楽しみにしています。はじめに感謝したいのは、様々なクレジットの確認作業を助けてくれた Stephen Minch、Allan Ackerman、Lee Asher、Eric Mead そのほかの人達です。

また、素敵な序文を書いてくれた Mac King にも感謝です。

3番目の感謝は、この本を買ってくださった皆さんに、です。ただ、「タダ読み」する人には感謝しません。ちゃんと、見ていますからね！

最初に本を書くとしたら、何を盛り込んだらよいのだろうかと悩みました。この「THE PRINCIPLES OF DESTRUCTION」にすべきか、私の Ed Marlo に対するエロチックな愛の小説にすべきか、など迷いました。

(訳注：著者はジョークを多発するので、そのつもりで読み進めてください)

私もいつかは本を書くだらうと思っていましたが、実際には大変な仕事だらうなと思っていました。そこで、まずは1つのトリックについての本を書くことにしたのです。それは私がギターではなくバス

を習ったのと同じ理由です。この場合は「弦」の数が少なかったからでした。

こう書きながら、私は自分の癖であるつまらないジョークが全体像を損なうのではないかと、思い至りました。そこであらためて真面目に言いますが、私はこのエフェクトをとて誇りに思っています。以下の頁にあるいろいろなやり方の組み合わせとこのエフェクトの構成に誇りを感じています。このエフェクトは、組み合わせて突き詰めていくと最大のインパクトを発揮するような原理、やり方を追求するという私のマジックに対するアプローチを体現するものです。私の目的は、完璧にダイナミックなマジックを皆さんとシェアすることですが、さらにそれによって、あなたのマジックをより強力なものにするための道具をあなたの道具箱に加えられることも期待しています。

私は、自分が演じるためにだけにマジックを創ります。しかし少しすると、嬉しいことに仲間のマジシャンが「あのアイデアを使って良いか？」と聞いてきます。このルーティンも初めは自分だけの秘密にしておくつもりでしたが、しばらくすると1つの啓示が訪れました。他のマジシャンもこのルーティンをやってくれたら、このルーティンにより私一人が生み出すよりも何倍もの「驚き」を世の人々に与えられるということです。そこで、この本が生まれました。

以下の頁には、私の血と汗と涙がつまっています。でも、もっと高価な本を買ったつもりでしっかり読んでもらわないと、それらの頁も単なる紙になってしまいますのでよろしく。

Ben Seidman

現象

第1段

一組のデッキが、客によりあらためられシャフルされます。マジシャンはカードをファンに広げて客に見せ、1枚のカードを覚えさせます。ここではハートのキング（HK）とします。

客がデッキをシャフルし、それをワイングラスに入れます。ここで客にはじめてカードの名前を聞きます。すると、そのカードがデッキの中からせり上がって来ます。すべては検められます。

第2段

HK は数枚のカードの中に入れられますが、それは消えてしまいます。そして、客が立つと客の座っていた椅子の上から現れます。

第3段

次に HK の1つのコーナーをほとんど破いた状態にします。客にそのコーナーを持たせたら、引っ張って破り取ってもらいます。コーナーのスイッチはありません。

残ったカードを手の中に押し付けるようにすると、突然カードは消えてしまいます。そのカードは、会場に座っている1人の客のズボンの後ろポケットから出て来るのです。

2人の客にカードの破れたコーナーを合わせてもらおうと、見事に一致します。

さあ、大騒ぎの始まりです。観客はあなたに金と宝石をシャワーのように浴びせて、その奇跡に感謝しました。山羊があなたのために、いけにえとして捧げられました。そして、あなたの偉業をたたえるためにあなたの像が建てられたのです！（訳注：ジョーク！）

エフェクトを構成するもの

「THE PRINCIPLES OF DESTRUCTION」（破壊の原理）というタイトルは気に入っていますが、大げさだったでしょうか？ その原理とは常識を破壊する巧妙なディセプティブ（騙される）なやり方であり、それが3つ集まってこのエフェクトは構成されています。

3つのやり方は1つの哲学的表現で表せます。

「見えているものがすべてではない」

問題なのは、客がどう思うかだけです。例えば、あなたが考え得るもっとも完璧なマジックを思い浮かべてください。ノーカバーで象を消すとか、本当の「MISER'S DREAM：マイザーズドリーム」（コインを空中から何枚も取り出すマジック）とか、死者を蘇らせるとかです。それらを観客が見たと想像してください。

しかし、観客が見たと思い込んだだけで実際には何も起きていなかったとしたらどうでしょうか？ 実際に起きた方が良かったのか、起きなくてもよかったのか？ 実は、マジシャンとしてはどちらでも良いのです。観客さえ、それが実際に起きたと信じてくれたらよいのです。

このエフェクトを構成しているのは「DUAL REALITY」（二重の事実）原理ですが、その原理、やり方も、それぞれの客が今見ていることを自分流に信じてくれることで成立するのです。

（訳注：「DUAL REALITY」は「二重の事実」と言われるメンタリズムで使われるやり方で、同じ1つの事実を複数の客にそれぞれ違う解釈をさせて思い込ませるテクニックです）

さて、まずはじめに言っておきたいのは、このエフェクトでは「サクラ」は使わないという事です。私は客とグルになったやり方は好きではありません。最近はやりのソーシャルメディアでは使えるかもしれませんが、それでも1本のタレコミ投稿で私の名声は失われてしまいます。「サクラ」を使った場合には、その客がどこで何をしゃべるか分かりませんし、噂はアッと言う間に広まるものです。考えるだけでも怖いです。噂を聞いたあるタイプの客達は喜んであなたを葬り去ろうとするでしょう。「サクラ」を使うという事はあなたの犯罪を目撃した証人が野放しになっているようなものであり、彼はいつでもあなたを滅ぼせるのです。

ですから、マジシャン仲間の皆さん、「サクラ」を使うなら、演技の後で彼らを抹殺しておくことです。他に目撃者がいたら、彼も始末しましょう。仕事は減るかもしれませんが、あなたの秘密は守られます。なお、誰かが殺人事件の裁判でこの本を証拠物件として提出したら、私は一握りのショーでマジックのショックで観客を死んだようにノックアウトしたことがあるに過ぎないと、公式に弁明するつもりです（訳注：ずいぶん長いジョークですね！）。

ですから、私は「サクラ」を使うのは好きではありませんし、仲間のマジシャンにも勧めません。その代わりにこのエフェクトでは、3つの「二重の事実」が使われ構成されており、それらが相まって見る者すべてに不思議なマジカルな瞬間を作り出してくれます。ある部分では「サクラ」と似たような効果を作り出していますが、その客自身は自分が「サクラ」の類だとは認識していないところに根本的な違いがあります。

この本の説明の中には「二重の事実」という言葉がよく出て来ますが、その度に乾杯などしないでください。アルコール中毒で死んでしまいますから。それでも、このルーティンの実際の演技では「二重の事実」の存在がまったく疑われたり、違和感を持たれないことに私はとても誇りに思っています。対象客と観客がそれぞれ違う認識の世界にいるので、不思議な現象が可能となります。

ただし、このエフェクトのように「二重の事実」を使う事には、あるレベルのリスクも存在します。例えば対象客が悪気なく、「ショーの前にマジシャンと話した」と言うかもしれません。そこで私の仕事は、そういう最悪のシナリオにおいても、誰もどうしてそのエフェクトが成立したのか分からないように、幾重にも「だまし」の防御網を張り巡らせることなのです。例えば、後述する「BLOW OFF」テクニックを使うことで、対象者が周りの人に話すリスクを大幅に減らせます。

マジックを成立させるやり方は、リスクと成果の天秤にかけて判断すべきものです。もしこのルーティンを正しく演じれば、リスクが小さく成果が大きくなる構成になっています。「サクラ」を使うのは大きなリスクがありますが、それに代えてこのルーティンのように計算されたやり方をすればリスクはありません。

このように、マジックが適切に構成され、正しく演じられれば、心配することは何ともありません。あなたがすべてを支配することになるのです。

読者はまず、この本に解説された通りに「THE PRINCIPLES OF DESTRUCTION」を演じると思いますが、他のマジックに有効に使われているやり方をいくつも応用していることに気づくかもしれません。ですから、皆さんも自分のルーティンを作る時に、この本のアイデアを自由に使ってください。きっとクリエイティブな読者は、この本を読み終わった時には、いろんなアイデアを自分流にどう使おうかと頭の中が興奮で高速回転していることだと思います。

必要なものと準備

あなたがどのヴァージョンをやるのかによって、必要な準備の内容も異なります。基本的なルーティンならば、いくつかの簡単なもの（デッキ、2枚の同一カード、鉛筆1本）だけで済みます。より綿密な準備をすれば、よりクリーンで不思議な演技が可能ですが、準備には工作なども必要になって来ます。まず第一には「ライジングカード」がありますが、これにはルーティンの他の部分に比べて、はるかに大変な準備が必要です。ですから、「ライジングカード」はオプションと考えています。

しばらくは、私は第1段なしで演じており、「ライジングカード」は比較的新しいものですが、それがあることでより素晴らしいルーティンとなりました。ただ、あなたが「ライジングカード」の準備が面倒だという事なら、それに代わるものを選んでかまいません。それによりあなたの準備が大幅に楽になるかもしれません。しかし、私は正式な演技には強力なインパクトがある「ライジングカード」を入れるのが好きで、そうしています。もっと気楽な演技環境では、「ライジングカード」を省くこともあります。

RISING CARD

私が使う用具は私のオリジナルですが、誰でもが思いつきそうなものなのでクレジットなどは主張しません。という訳で、第1段の「ライジングカード」は、やり方自体はこの本の中で一番面白くないかもしれません。でも、このルーティンの本当においしいところは後で出て来るので安心してください。

では皆さん、座って準備と工作をしましょう。以下のものがが必要です：

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

■

「ライジングカード」を最初に演じたのは、Abram Colorni のようです。1626年に Thomas Garzonus が書いた本に記録があります。ただし、Garzonus は、「Colorni が、客が自由に言ったカードをデッキからせり上げた」と記録しているだけで、信頼出来るやり方の説明は1世紀あまり後の1722年に Henry Dean によって書かれた本（書名は本文参照）まで待たなければなりませんでした。しかし、その Dean のエフェクトも、リボンスプレッドしたカードの中から客のカードが飛び出す、あるいは這い出て来るというものでした。一方、カードを入れる特別なケースなどからカードがせり上がる現象も1700年代初頭には行われていたようです。もしあなたがクリエイターとして自分の「ライジングカード」がオリジナルだと言いたくなったら、その現象が振り子時計や炭酸水などよりも前に存在していた事実、さらには水洗トイレよりも150年も前に存在していたという事実を思い起こしてください。少しは冷静・謙虚な気持ちになるのではないのでしょうか？私はなります。私はいつも悠久なる歴史によって謙虚さを教えられてきたのです。

—以下省略—

CARD UNDER SEAT

まずやることは、1枚のHKの上下両端に図13のようにマークを付けておくことです。これはカードをスプレッドしたり、斜めにずらしてデッキを持った時にもマークがすぐに分かるようにするためです。コーナーをショートにしても使えますが、私はこのマークの仕方の方が好きです。

（読者の皆さんにハッキリと分かるように、鉛筆によるドットマークも大きく濃く書いてありますが、実際にはもっと目立たないものです。なお、何の話か分からない人もお客として大歓迎です。（訳注：ジョークです。）

なお、原文では2枚のHKにマークするとなっていますが、1枚でかまいません。それも、演技の最初にデッキを観客の1人にシャフルさせたいと思う場合にのみ必要なものです。動画では、最前列の客にシャフルさせた後に、何気なく裏向きで広げてマークのあるカードでカットしてトップに持って行っています。もっと楽をしたいなら、「ストリッパーデッキ」を使い、HKの向きを逆にしておけば良いです）

この第2段、「CARD UNDER SEAT」のためには、1枚のカードを密かに保持しておくためのホルダーを作る必要があります（なお、このギミックなしでも演技は可能ですが、ギミックを使うことで楽に出来ます。椅子の裏のカードをもたつくことなくパームすることが出来ます）。

ギミックを作るのに必要なもの：

—以下省略—

PRE-SHOW

演技の前に私が働きかけた客（プリショー客）は、後で「二重の事実」の中で過ごすことになります（訳注：事前に彼が言われてそう思っていることが、他の観客達の思っていることとは違う状況下に置かれるという事です。1つの事実をそれぞれに、違うように解釈させるというメンタリズムでは良く使われる手法です）

ただし、もしあなたが「プリショー」というやり方を好まないのであれば、別なやり方も後述します。説明を完全なものにするために両方のやり方を述べておきますが、このプリショーのやり方はとても巧妙なもので、プリショーされた客自身もその事実から目をそらされるようなものです。

トップに破いたHKがあるデッキを表向きで持って、プリショーを仕掛ける客に近づきます。もし、あなたがショーの前のサービスに客の間をちょっとしたマジックを見せて歩いているのであればかまいませんが、そうでない場合はなるべく1人だけにいる客かカップルの客を探します。彼に何気なく話しかけ、場合によってはクイックトリックを見せても良いでしょう。もしその人が気難しそうな人の場合には、他の人を探しましょう。ショーに参加することに乗り気な人を見つけます。あなたが人の良さそうな人を見つけて、彼の名前がフレッドだとします。

まずは、彼にショーの時に手伝ってもらっても良いかと聞きます。彼がOKしたら、こう言います：

「有難うございます。ショーの中で、あなたがボランティアとして参加してくれたことを、私が他の皆さんにお知らせします。あなたが自分の意思に反して引っ張り出されたとは思われたくないのです」

これはやや冗談めかして言いますが、このセリフは演技後半で効いてくるのです。

表向きのデッキをざっと広げて、カードがバラバラであることをその客に見せます。使っているのは新しいカードであり、それを使って何か信じられないようなことをやろうと思うと言います。うまく行くかどうかは五分五分だが、とにかく驚くべきことなのだ、と言いながらデッキからジョーカーを抜き出します。

ジョーカーを客に渡したら、ズボンの後ろのどちらかのポケットに入れて欲しいと頼みます。ただし、誰にもどちらに入れたかが分からないように周囲に注意して欲しいと言います。フレッドに、背後を見て誰もいないことを確認するように、などと言います。

—以下省略—

第2段

ここでは、ベサニーがHKを何枚かのカードの中に入れるとそれが消えてしまい、彼女が座っていた椅子の上に現れます。

—以下省略—

おわりに

このルーティンが量が多すぎるという人がいることは分かっています。しかし、もしあなたが本書で説明した物理的テクニックと言葉のテクニックを時間をかけて学ぶならば、あなたはマジックにおけるとても強力な武器を手に入れることになります。

あなたは自分のルーティンを構成する上で役に立つであろう3つの「二重の事実」のやり方を知りました。単に自由に心に思ったとしか思えないカードのフォースのやり方、誰かのポケットにカードなどを現す不可能な方法、そして実際には決められていたのにランダムな客を選んだように見せるやり方です。

プロタッチのやり方としては、ベサニーの椅子の上にカードを表すのではなく、ベサニーをステージに上げる時に彼女のポケットに密かにカードを入れる手もあります。これはさらに大きなリアクションを引き起こすでしょうから、もしあなたが「ライジングカード」がそれほど好きでないなら第1段を省いてしまっても良いくらいです。

とにかく、この本を最後まで読んでいただき、有難うございました。もしあなたがこのエフェクトを時間をかけてマスターしたなら、爆竹並みの破壊力のあるエフェクトを手にするをお約束しましょう。

追伸：もし、あなたがこの本に誤植やスペルのミスなどを見つけたら、どうぞ遠慮なく John Lovick を責めてください。彼の校正能力を批判することを全面的に許可します。この本に関する文字通りどんな批判も、John Lovick に向けることを私は許可します。

（訳注：これももちろんジョークです。John Lovick は Andi Gladwin や Joshua Jay などと共にこの本の校正作業をした人です）

—以上—

日本語説明書©2025 FTM: *Feather Touch Magic Inc.*

販売：(有)フェザータッチ MAGIC

www.FTMagic.JP



フェイスブック： www.facebook.com/ftmagic

(新製品情報、特別セール情報等はこちらでチェック)

Instagram： www.instagram.com/ftmagic0000/

Twitter： <https://twitter.com/FTMagic>

メール: FT@FTMagic.JP

